

# 岩船地域における「あきだわら」の多収穫栽培ごよみ



目標の収量構成と品質	
目標収量	800kg/10a
穂数	370~390本/m <sup>2</sup>
1穂粒数	112~116粒
m <sup>2</sup> 当り粒数	43,000粒
登熟歩合	85%
千粒重	22.0g
検査等級	全量1等
玄米タンパク質	6.5%

栽培のポイント

- (1) 健苗育成 : ①育苗日数は20日程度(加温20日、無加温25日) ②播種は4月15日以降、播種量は乾籾150g/箱 ③5月10日~20日頃の移植
- (2) 過剰生育防止 : ①1株苗数3~4本植えとし、莖質向上 ②栽植密度は莖数確保のため60株/坪(大豆跡は50株/坪) ③基肥窒素量は7~8kg/10a程度(大豆跡は1/3~無施用) ④中干し・溝切りを徹底し、根の健全化と莖質向上
- (3) 登熟向上 : ①1回目の穂肥時期が幼穂形成期であるため、幼穂確認と遅れない穂肥 ②出穂前後25日間は飽水管理とし、田面を乾かさず地力窒素の発現を促進 ③落水は出穂25日以降とし、登熟向上
- (4) 病虫害防除 : ①いもち病の箱処理剤による予防防除 ②いもち病とカメムシ類の同時防除 ③紋枯病の発生に応じた適切な防除
- (5) 胴割れ発生防止 : ①刈り遅れしない適期収穫 ②刈取水分に応じて乾燥温度を調節
- (6) 土づくり : ①稲わらの秋すき込み ②土づくり肥料や堆肥等有機物の施用

基本は「適正生育量の確保」と「登熟の良い稲づくり」

